

日交研シリーズ A-678

平成 27 年度自主研究プロジェクト

「少子高齢社会における子育てしやすいまちづくりに関する研究」

刊行：2017 年 1 月

少子高齢社会における子育てしやすいまちづくりに関する研究
City Planning Friendly for Child-Rearing Households in the Era of Aging Society
with Fewer Children

主査 大森宣暁（宇都宮大学教授）
Nobuaki OHMORI

要 旨

少子高齢社会に直面しているわが国において、子育て世帯の社会参加を支援し、少子化に歯止めをかけるためにも、妊婦、乳幼児・児童を持つ子育て中の親および子どもが、安全・安心・快適に外出活動に参加し、多様なライフスタイルを選択できる環境を整備することが重要である。そのためには、「子供連れで外出活動に参加しやすい環境」と「子供を連れずに外出活動に参加しやすい環境」の両者を備えた都市構造および交通システムの実現と、国、地方自治体、民間事業者、NPO 等、職場、子育て世帯、その他の世帯など、多様な主体が適切に連携および役割分担を行うことが重要であると考えられる。昨年度までの研究プロジェクトにおいて、子育て中のバリア、子育て世帯の外出行動、子育てに対する意識、およびそれらの大都市と地方都市による違い等についての理解を深めたが、子育て世帯の多様なライフスタイルを実現し、生活の質を向上させるための都市と交通のあり方、多様な主体間の適切な連携・役割分担、そして子育てに対する人々の理解を醸成するための手法の検討等が、研究課題として残されていると認識している。本研究は、乳幼児・児童を持つ子育て世帯が、地域社会で多様なライフスタイルを選択でき、生活の質の向上に資する都市・交通施策のあり方を、都市、交通、建築、福祉、教育等、幅広い視点から総合的かつ具体的に検討することを目的とする。昨年度までの研究成果を踏まえて、わが国の社会的文化的特性を反映した子育てしやすい都市・交通施策の提案に向けた理論的かつ実践的な研究を行う。

6 月に九州大学で開催された第 51 回土木計画学研究発表会において、「子育てしやすいまちづくり」セッションを企画し、研究会メンバー以外の参加者を交えて、子育て世帯の生活の質向上に資する都市・交通施策に関して多様な視点から議論を行った。研究会では、ゲストスピーカーによる講演「都市構造と子育て環境」と議論、土木計画学研究発表会での研究発表・質疑についての報告、大都市と地方都市での子育て環境の違い等について、多様な視点から議論を行った。別途、昨年宇都宮市内の 3 保育園で実施した、子育て共働き世帯の家事・育児の役割分担の実態や意識に関するアンケート調査データの分析を進めた。また、本アンケート調査の回答者の中で、追加調査への協力意向を示した世帯を対象に、Web ベースの活動・交通シミュレータ ARIGATO を用いて、送迎の役割分担を変更した場合の夫婦と子のスケジュールを提示し、理想の役割分担に関する意向を把握した。

キーワード：少子高齢社会、子育て、まちづくり

Keywords：Aging Society with Fewer Children, Child Rearing, City Planning